

た。式内等舊社記に、『笠野神社。木郎郷上村鎮座。釋笠野明神。或云笠野宮。鹿島郡笠野村笠野神勸請云。』とあり、又能登路記には、『この城山(松波)つゞきに大なる宮森あり。笠野の宮とて、上村の氏宮なり。この宮のわきに、笠野といふ百姓あり。この者の先祖品に出でありしに、此神体此者の笠野の上を下り告げ宣ふは、我をこの氏神にまつるべしとありて、即ちこゝに勸請せしなり。本地金像の薬師如來の小佛の由。』と記する。

カザシノマツ 挿頭花の松 金澤城石川門外白鳥堀の堀縁にあるものをいふ。越登賀三州志に、かざしの松は、向山より石川門脇を見下す故に、前田利常の時篠原織部に命じて植ゑしめた。此の時篠原は用人を勤めて居たと記する。古へはこゝに巨大の老松数株繁茂して、風景殊に佳かつたが、廢藩の際伐木して、今畿かに一株を殘してゐる。俗に鎗かけ松とも呼ぶ。

カサシホ 笠師保 鹿島郡に屬し、承久三年注進の能登國田數目録に『笠師保、拾町貳段、承久元年檢注定。』とある。後世亦笠師保がある。

カサシホ 笠師保 鹿島郡に屬し、藩政時代では、笠師・鹽津・大津・筆染の四ヶ村を含んで居た。

カサシマ 笠島 河北郡金津庄に屬する部落。

カサシマシ 笠島新 河北郡金津庄に屬する部落。明治中鉢伏新と併せて七窪と改められた。

カサタニ 風谷 江沼郡奥山方に屬する部落。

カザタニガハ 風谷川 江沼郡風谷領大谷から出で、うめがといふ所に至つて大聖寺川に合する。

カザタニゴエ 風谷越 江沼郡風谷にあつて、一にいろは峠ともいふ。奥山遊覽記に、『村を過ぎて左に御番所あり。この村より道上下に在り。下の道より大内村へは直道にして數里近し。上の道はいろは峠なり。峠の上より越前市野へ出る也。』とある。北陸七國志には、天文二年三月九日加州の浪人武者越前牛屋に陣を取り、加州上郡へ足輕をかけたが、味方であつた黒瀬左近四郎は心を亂し、出陣する林で風谷から加賀へ逃げ歸つたと記する。

カサトリタウゲ 笠取峠 能美郡五十谷から阿手に通ずる所に在る。今は隧道を通ずるを以て廢道となつた。

カサトリヤマ 笠取山 江沼郡右(部落名)に在る。江沼志稿に、笠取山は大聖寺の西に當る。相去ること三十町。右村領に在り、兒女輩の遊宴する所で、眺望佳良であると記してゐる。官地論に長享二年越前勢が國境から侵入した時、一揆の金森玄英入道が笠とり山より落かけて横合に散々に討つたとあるのも是であらう。

カザナシ 風無 羽咋郡藤懸郷にある部落。カサネノシヨウガツ 重ねの正月 藩政時代には、二月朔日を重ねの正月といふた。殿中では朔望の登城があるが、民間には格別の行事がなかつた。今も民間で二月一日又は三月一日に業を休む所がある。

カサノ 笠野 河北郡の舊村名。源平盛衰記俱利伽羅合戦の條に『笠野、富田を打廻り、

竹橋の擲手にこそ向ひけれ。』とある。越登賀三州志に之を引き、笠野に註して郷名としてゐる。しかし此の地は王朝の英太郷で、源平時代既に笠野の郷名があつたとも思はれぬ。思ふに今の笠野の原に笠野神社があるから、この部落を初めは笠野といふたのであらう。

カサノゴウ 笠野郷 河北郡に屬し、藩政時代では、田屋・岩崎・七黒・鳥越・北・蓮花寺・鳥屋尾・龍月・吉倉・大熊・八谷・市谷・彦太郎・笠池原・大島・勅谷・富田の十七ヶ村を含んで居た。

カサノジンジャ 笠野神社 河北郡笠池原に鎮座する。式内等舊社記に、『笠野神社。式内一座。笠野郷笠池原村鎮座。祭神多力雄命。笠野谷十七村之總社也。』と見える。

カザハラ 風原 鳳至郡小山の内の小字。

カサヒモノゴシヨ 笠紐の御書 天正八年閏三月本願寺顯如は織田信長と和を講じ、四月九日開城して紀州鷲の森に去つたが、その子教如は父の命を奉ぜずして石山に留り、信長と雌雄を決せんとした。この際教如が能州すゞ(珠洲)の郡惣中に興へた消息が、卯月三日附になつてゐるを見れば、如何にその決意が速かであつたかわかる。この書今鶴岡妙嚴寺に藏せられて、紙幅甚だ小さく、横四八厘五堅一二厘四に過ぎぬ。教如の使者が笠紐の中に匿して齎したといふので笠紐の御書と稱せられる。同日教如がほこひ(羽咋)郡惣中に興へたものも、亦羽咋郡本念寺に藏せられ、五月廿五日附能美郡栗津惣中及び波佐谷惣中に興へたものは、波佐谷藤田氏の有に歸してゐる。その後者は手の内の御書といはれてゐる。しかしその後教如は到底敵すべからざる

を知つて和を議し、七月十七日信長の誓書を得て、八月二日城を去つた。

カサブセヤマ 笠伏山 江沼郡深田に在る。江沼志稿に、笠伏山は深田村領にあつて、嶺に古き石佛があると記される。

カサマ 笠間 石川郡笠間郷に屬する部落。笠間の邑名は文安五年六月の石清水八幡宮寄進状にも見える。然るに明暦二年の村御印には見徳寺村とあり、延寶三年に見徳寺村を笠間村に改めたとある。賢徳寺は今笠間の枝村になつてゐるが、それが一時惣名になつてゐたことがあるのである。

カサマカネモチ 笠間兼持 通稱新右衛門。前田利常に大坂の役に従ひ、元和元年百石を領し、寛永十五年父平右馬の遺知二百石を受けて自分知を除かれ、會所奉行・萬菊様御付となり、正保四年小松に於いて六十六石六斗六升六合を加へ、御馬廻に班した。隱居の後是徳と號し、延寶二年十二月廿五日歿。

カサマゴウ 笠間郷 石川郡の古郷名。加佐萬と訓ずる。延喜式に石川郡笠間神社があり、源平盛衰記に、源義仲がその曹を笠間八幡に、甲を宮保八幡に奉りたることを記し、後宇多院御領目録に加賀國笠間東保があり、南禪寺記亦之に同じく、明徳以降の北野神社文書には多く笠間郷と見え、延徳元年の同文書には西笠間保がある。藩政時代にも笠間郷があり、今も笠間の部落が存する。

カサマゴウ 笠間郷 石川郡に屬し、藩政時代には、小川・黒瀬・宮保・松本・石立・北島・笠間の七ヶ村を含んで居た。

カサマゴウユキ 笠間郷遊記 一冊。津田鳳輝著。石川郡笠間郷七ヶ村を遊歩して、